

開会の辞 13:30-13:55
挨拶 西村清和(藝術学関連学会連合会長)
趣旨説明 青木孝夫(広島大学)
司会 山崎稔恵(関東学院大学)

報告 14:00-17:25
14:00-14:25 山本聡美(美術史学会・共立女子大学)
「醜い身体—日本中世仏教絵画における病と死」
14:25-14:50 ジェラルド・グロマー(東洋音楽学会・山梨大学)
「瞽女—差別と芸能」
14:50-15:15 栗山裕至(美術科教育学会・佐賀大学)
「子どもの造詣とダーク・サイド」
15:20-15:45 一 鎌田徹(広島芸術学会・広島大学)
「《ヒロシマのピエタ展》—その成果と課題」
15:45-16:10 天内大樹(美学会・静岡文化芸術大学)
「震災後の日常—集住と展示」

パネルディスカッション 16:25-17:25
司会 青木孝夫(広島大学)
権原伸博(実践女子大学)

閉会の辞 17:25-17:30

老い・倦怠・挫折・過疎……
文明的生の腐葉土を
滋養に換え、
アートは芽吹いている

藝術の腐葉土としての ダークサイド

藝術学関連学会連合第9回公開シンポジウム
2014年6月7日(土) 13:30-17:30
東京国立近代美術館講堂

主催 藝術学関連学会連合(参加学会:意匠学会/国際浮世絵学会/東北芸術文化学会/東洋音楽学会/日本映像学会/日本演劇学会/日本音楽学会/日本デザイン学会
比較舞踊学会/美学会/美術科教育学会/美術史学会/広島芸術学会/服飾美学会/舞踊学会 50音順)

共催 実践女子学園アート・コミュニケーション研究所

会場 東京国立近代美術館講堂 参加費無料

お問い合わせ先 日本大学文理学部哲学研究室(藝術学関連学会連合事務局:03-5317-9702)

藝術の腐葉土としての ダークサイド

藝術学関連学会連合第9回公開シンポジウム
東京国立近代美術館講堂

古い・倦怠・挫折・過疎……
文明的生の腐葉土を
滋養に換え、
アートは芽吹いている

近代的アート観の背後には、近代的な人間観があり、現代的なアートや現象の背後には、現代的な人間観とその暮らしがある。

現代のアート活動の背後には、我々の社会や個人の盛んな活動が存する一方で、その活動のもたらす落葉が堆積したたつぷりとした腐葉土がある。疲れ・倦怠・虚偽・衰退・自棄・挫折・麻痺・墮落等が日常となっている文明的生の腐葉土を滋養に換えて、アートは芽吹いている。

かつて、社会に浸透していた天才を典型とするアートは、ロマン派的思潮に乗り存続していたものだろう。しかし、アートもアート観も知らず識らずの内に変容した現代に於いて、輝かしい才能や創造力の発揮、またその結果として、既成概念や既存の作品の超克や破壊として理解されてきたアートとは、別のアートの考え方や動きがある。

病人のアート、障害者のアート、老人の藝術、こうした光や輝きに対置されるダークサイドのアートを、限局した形で問うこともできる。しかし、そこにはなお変容したロマン派のアート観が認められよう。

いつの時代も、そして我々の時代も、否応なしに個人も共同体も出会い対応せざるを得ない生・老・病・死、そうしたどこにでも存在している世界の腐葉土から、新しいアートやアートの見方が生い立っている。ことは何も現代に限らないが、キラキラと健康を歌う社会の陰で、ひっそり閑と進展しているアートとアートを支えるパラダイムの転換を、それらが根ざす腐葉土との関連で検討するのが、今回のシンポジウムの趣旨である。

パネリスト&テーマ

山本聡美 (共立女子大学・美術史学会)

「醜い身体—日本中世仏教絵画における病と死」

「病草紙」と「九相図」を取り上げる。病氣、奇形、腐敗する死体という主題は、自他の肉体への執着を戒める仏教教義に基づく。中世日本においては、身体の不浄や無常への自覚が、信仰をうながし人間と仏とを結ぶ回路として機能した。

早稲田大学大学院文学研究科芸術学(美術史)専攻博士後期課程単位取得満期退学、博士(文学)。共立女子大学文芸学部教授。日本中世絵画史。

ジェラルド・グロマー Gerald Groemer (山梨大学・東洋音楽学会)

「瞽女—差別と芸能」

瞽女(ゴゼ)と呼ばれた芸人は女性として、視覚障害者として、また多くの場合社会の下層に属する者としても様々な差別に耐えながら、近世・近代社会を生き抜いた。彼女たちは日本各地を広く巡業し、人々に興味深く楽しい唄と三味線演奏などを提供し、日本の音楽文化を潤した。

東京芸術大学大学院学理科博士課程修了(芸術学博士)。山梨大学教育人間科学部教授。日本史(近世芸能史、日本音楽史、民族音楽学)。

栗山裕至 (佐賀大学・美術科教育学会)

「子どもの造形とダーク・サイド」

子どもが創り出す様々な造形、そしてそこに見出される創造性の表われを、「藝術の腐葉土から生み出される多種多様な芽吹き」ととらえながら、一見あどけない子どもの造形の多面性について提起したい。

筑波大学大学院博士課程芸術学研究科単位取得満期退学。佐賀大学文化教育学部教授。美術科教育。

一 鍛田徹 (広島大学・広島芸術学会)

「《ヒロシマのピエタ展》—その成果と課題」

ヒロシマでは被爆者の高齢化に伴って、記憶の風化が懸念されている。被爆体験を持たない他者がどう継承していくのか。《ヒロシマのピエタ展》やホスピタル・アートの実践を踏まえ、その成果と課題について考える。

千葉大学大学院教育学研究科美術教育専攻修了。広島大学大学院教育学研究科教授。彫刻家。

天内大樹 (静岡文化芸術大学・美学会)

「震災後の日常—集住と展示」

東日本大震災と東京電力原発事故は甚大な害悪をもたらしたが、被害地域が十把一絡げに負の刻印を帯び続ける理由はない。改めてその場所で暮らすことの方法について、創造的に模索されたことで生じた多様さの一端を示す。

東京大学大学院人文社会系研究科美学芸術学専門分野博士課程退学。静岡文化芸術大学デザイン学部専任講師。美学芸術学、建築思想史。

主催 藝術学関連学会連合(参加学会: 意匠学会/ 国際浮世絵学会/ 東北芸術文化学会/ 東洋音楽学会/ 日本映像学会/ 日本演劇学会/ 日本音楽学会/ 日本デザイン学会/ 比較舞踊学会/ 美学会/ 美術科教育学会/ 美術史学会/ 広島芸術学会/ 服飾美学会/ 舞踊学会 50音順)

共催 実践女子学園アート・コミュニケーション研究所

日時 2014年6月7日(土)
13時30分—17時30分

会場 東京国立近代美術館講堂
東京都千代田区北の丸公園3-1
<http://www.momat.go.jp/>
参加費無料

東京メトロ東西線竹橋駅1b出口
徒歩3分(上記URL参照)

お問い合わせ先 日本大学文理学部哲学研究室
(藝術学関連学会連合事務局:
03-5317-9702)